

■長瀬委員：第2回岐阜市教育振興基本計画検討委員会 提出意見**(子どもを育む大人や社会のあり方について)**

- 最も重要なことだと思う。日常生活を営む中で、子どもよりも大人の側に注目すべき点が多いと感じる。子どもは、大人の様子を見て学んでいくことを意識すべきではないか。
- 大切なことは社会性。人に迷惑をかけなければよいという話を聞くが、迷惑に対する考え方が以前と変わってきているように感じる。
- 大人自身が社会性のある行事(地域や学校の行事等)に適切に関わっていくことが重要。企業の立場からも、従業員に対して、そのような関わりの大切さや必要性を伝えていくことが必要だと考えている。

(目標や指標の設定について)

- 当社の考え方而言えば、目的は文章でもよいが、通常、目標には必ず数字を入れる。目的・目標・戦略/戦術・日々の行動・検証の流れがあり、これを5W4Hで表す「ゴールシート」と名付けたフォーマットを使用している。最初に「ゴールシート」が作れないと、うまくいかないのではないか。
- 同じ事実であっても、人によって評価が異なる場合がある。また、自分たちの経験が乏しいと数値目標を立てることが難しい。仮に、定性的な評価しかできない場面では、経営層であってもその分野の直接的な経験が乏しければ評価が正しいのかどうか分からない。実際に経験したことがないと、定性的な評価を行うことは困難ではないか。
- 評価に際しては、実際に施策の対象になった人たちの感じたことが重要ではないだろうか。
- 目標を立てるためには、大きな目的を要素に分解していく必要がある。分解した要素ごとの目標値に対して、近づけば近づくほど完成品の精度が高まる。
- 人材育成の分野は数値化しがたい分野の一つだが、数値化するプロセスで計画の精緻化が図られる。数値化するためには、要素に応じて細かな分析が必要で、その作業によって計画に無理がある部分が見つかる。また、施策の効果について仮説を立てて、関連しそうな数値を設定することもできる。そうすることによって施策に対するイメージを鮮明にすることができる。
- 予算や人員の獲得には、自分たちがやろうとしていることを人に説明して理解してもらう必要がある。その時に、自分がいつも持っている切り口だけだと十分に伝えられないかも知れない。通常だと言わないような切り口を持ち出して意義づけたりする工夫が求められる。今は、あらゆる角度から物事を捉える球体の視点が必要な時代。切り口をどう探し出すかが知恵の出どころではないか。

以上